

「事業承継」という言葉を最近ニュースでよく耳にします。「事業承継」とは、どのようなものなのでしょうか?

A 「事業承継」とは、親対策や、株価対策、株式集め等の「儲けの仕組み」と、会社を引き継ぐことを指します。ただし、「事業」といっては、外部(売却)へ、事業といた捉え方です。

つまり子に「最近では従業員へ、中化」などの法務面での対策があります。たゞ、「の言葉」にはさまで、さまざまな捉え方があるようであります。

例えば、「事業承継時の贈与や相続」などの税金面での

である「目に見えない資産」が「目に見えない」とは、将来のリスクになります。変化に柔軟に対応する会社本質です。

それをつくりてきた「社長の想い、理念」をいかに引き継ぐかということが事業承継の本質なのです。それは、円滑に引き継ぐ一方で、「目に見えない資産」を磨くこととなり、事務の継続にもつながるのであります。しかし、それは方必要なのでしょうか。

それで、円滑に引き継ぐためにはどのような考え方があるのでしょうか。産の磨き上げには、少なくとも3~5年、後継者の育成

も可能です。しかし、それは方必要なのでしょうか。

事業の承継で大切なこと

地域に少しでも多くの「事

業」を残す支援をしたい。「事

業承継」に関する相談は、

ぜひ中小企業診断士にお任せ

下さい。

法論であつて本質ではありません。

せん。

事業承継において一番大切な

化を捉えた未来志向で磨き上

げていく必要があります。

な」とは、「事業の継続」で

す。その前提があつてこそ、

税金や株式、資産の承継対策

の意義があります。「事業の

く変わりつつある今、過去か

継続のために、事業の源泉

らの技術や商売の形をそのま

します。そして、「事業

の「事業計画書」とも連動

県中小企業診断協会(804

8・762・33350)

中小企業
診断士による

経営
Q&A